

平成31年度 佐賀県立有田工業学校 学校評価計画

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
平和で民主的な社会の形成者として、個性豊かで人間愛に満ち、国際的視野に立って社会に貢献できる、心身ともに健全な人間を育成する。 ・地域を愛し、地域から愛される有工生を育て、地域に根ざした学校として更なる発展を目指す。 ・学力の向上を目指し、部活動にも取り組む、光り輝く有工生を育てる。 ・高い志を持ち続けるチャレンジ精神豊かな有工生を育てる。	① 挨拶、服装、マナー指導の徹底と思いやりの心の醸成 ② 進路保障に繋ぐ意欲的な学力向上と資格取得 ③ 志をもった部活動と生徒会活動の展開とともに業務改善を進める ④ 保護者、地域、産業界との連携強化と特色ある教育の推進 ⑤ 5S運動(整理 整頓 清潔 清掃 躰)とUDの推進 ⑥ 高校魅力づくりの推進

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① 挨拶、服装、マナー指導の徹底と思いやりの心の醸成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育 (社会規範定着マナー向上)	基本的生活習慣の向上	生命を大切にする心や他人を思いやる心、善悪の判断など、規範意識の向上と道徳性を身につけさせる。	・校則を遵守させ、自己管理能力を身につけさせる。 ・生徒一人ひとりが自ら考え、他の生徒たちと議論を交わす力など、コミュニケーション能力を育てる。
	●いじめ問題への対応	早期発見、実態把握に向けた全国的な体制の推進	いじめがなく、全生徒が安全に安心して生活を送れるような学校づくりを目指す。	・学校生活アンケート(いじめに関する)を実施し気になる生徒やクラスの雰囲気や早急に対応する。 ・授業開始2分前には教師が教室に臨み、生徒の様子や実態を把握するように努める。 ・職員同士の情報交換を行いながら、共通理解・共通指導を行う。
	○人権・同和教育	人権・同和教育の推進	いじめや性差別などさまざまな人権問題に対する視野を広げ、人間愛に満ちた生徒の育成を目指す。	・6月の「人権学習・進路保障ホームルーム」を他校の参考となるような、内容の充実した公開授業とする。 ・すべての教職員が校内研修はもとより、校外での研修会に積極的に参加して人権感覚を磨く。 ・違反質問等に対し、その差別性を見抜き指摘できるような進路保障体制を築く。

② 進路保障に繋ぐ意欲的な学力向上と資格取得

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	図書館利用の推進	生徒一人当たりの貸し出し冊数7冊を目指す。	・朝読書を通して、生徒の図書館利用を促す。 ・図書館だけで生徒のおすすめの本を紹介し、生徒の読書意欲を喚起する。 ・図書館のレイアウトを変更することによって、より足を運びやすい環境を作る。
		学習習慣の定着 授業への取り組み姿勢の向上	各学期の追認指導科目数を昨年比で20%減らす 基礎力テストへの取り組み強化 授業改善と指導力向上に取り組む	・適切な課題配付をおこなうとともに、未提出者の指導を徹底する。 ・クラス、学年、授業担当等から基礎力テストを頻りに話題にすることで、意識づけとする。 ・家庭学習時間確保のため、各方面で帰宅時間に配慮をする。 ・定期考査にあたり、学習計画をしっかりと立てさせる指導をおこなう。 ・授業に関するアンケートを行い、教員、生徒ともに改善の一助とする。
	○進路保障	進路保障	2学期末までに、就職内定率・進学合格率の100%を達成する。	・進路対策補習や模擬面接の実施により、基礎学力の向上と面接対応力の向上を図り、第一次選考での合格率90%を達成する。 ・生徒に過去の受験報告書を用いて、受験のための対策を練らせ、目標達成のための努力を継続させる。 ・早期の離職を防ぐため、職場見学や職場調べにより、就職のミスマッチを防ぐ。
		資格取得	ジュニアマイスター認定:ゴールド10名、シルバー25名、ブロンズ25名、校内表彰80名以上。3年間で全員が3つ以上の資格を取得する。	・顕彰制度、表彰制度を生徒・保護者・職員へ周知させる。 ・資格取得、コンクール参加を奨励、補習体制の充実
●志を高める教育	進路意識の形成	生徒自身が、自己の進路目標を調査・考察し、具体化して主体的に決定できるようにする。	・「進路のしおり」や「ポートフォリオ」を活用してLHRの充実を図る。 ・進路ガイダンスおよび職員の企業訪問の報告や先輩からの情報を随時生徒に還元し、進路意識の向上を図る。 ・県内企業紹介会や進路報告会を実施し、1・2年生への進路意識を高める。	

③ 志をもった部活動と生徒会活動の展開

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●志を高める教育	部活動・学校行事の活性化	部活動、学校行事に生徒自身が主体的に参加できる環境づくりをする。アンケートを実施し、生徒の達成度80%をめざす。	・学校行事に関しては、昨年のアンケートをもとに、更に充実した内容を検討する。 ・主体的で建設的な生徒の意見を尊重し、行事や部活動に反映する。 ・部活動については、ホームページの部活動ニュースの更新を月に1回行い、情報発信するとともに活性化につなげる。

④ 保護者、地域、産業界との連携強化と特色ある教育の推進を図るとともに、業務改善を進める

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○開かれた学校づくり	保護者会との連携	PTA総会の出席率85%以上	保護者の興味を引くように授業参観では担任の授業や専門科目を設定し、また、参加しやすい曜日に開催する。クラス評議員の方々にも参加の呼びかけをお願いする。
		情報発信	ホームページの内容の充実および保護者への浸透。少なくとも週に複数回の更新	・逐次ホームページの情報を更新する。学校案内などとの整合性を保つ。 ・ホームページ管理更新の組織を明確にし、更新人員の拡充を行う。
活動教育	○キャリア教育支援	キャリア教育の充実	キャリア教育に関する生徒満足度80%以上 生徒の希望するインターンシップ受け入れ事業所を確保する。	・将来の進路を想像できる実技や講義を計画的に実施する。 ・実際に生徒が就職した実績のある事業所を開拓する。
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	職員の心身にわたる健康の増進(職員が元気あることで、生徒と共に活気あふれる学校であることを目指す)	勤務時間外労働時間の前年比20%減を目指す。 平均年休消化日数の増加を目指す。	・部活動の休養日を設けることにより、職員・生徒の健康維持、健全育成を図る。 ・事務業務の簡素化、効率化を図り、職員が生徒と向き合える時間を充実させた上で、職員の帰宅時間を早める。 ・職員が心身の不調を感じた時には、随時休養または医療機関受診ができるような職場内の相互関係を築く。

⑤ 5S運動(整理 整頓 清潔 清掃 躰)とUDの推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	環境整備・美化	5S運動を推進し、安全教育の充実と環境意識を高める。	・企業等の5Sに対する取り組みを調査し、その内容を保健便り等に掲載するなどして、ものづくりに責任をもって取り組もうとする意識の向上を図る。
		UD思考の考え	UDの視点を取り入れたボランティア活動や新聞発行を通して、生徒の関心と意欲を高める。	・月1、学期1の新聞発行をはじめ生徒会活動を通して、震災支援や防災の啓蒙、UDの視点を育む。 ・学期に1回の清掃活動を行い、学校周辺の環境美化に貢献する。

⑥ 高校魅力づくりの推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●魅力と活力のある高校づくり	地域と連携して高校の魅力高める取組を推進することができたか	町内の各団体や学校と連携し、人口減の進む町が抱える様々な問題点を見出し、解決策を研究・実現しながら本校の魅力アップにつなげる。	「有田町まちづくり課」を窓口として各団体と、「有田町教育委員会」を窓口として幼小中学校と連携し、町の抱える様々な問題点を「ものづくり」や「コトづくり」を活かしながら解決策を研究・実現する。また、それらの活動により有田町の魅力を高めながら、本校の魅力や存在意義を高めていく。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	食育だより等による情報発信の回数を増やし、学校・家庭の連携により、食への意識・関心を高める。	・食育・健康に関する食育だよりの発行(年3回以上) ・将来の食生活の自立に向けた情報を食育講演会や食育だよりを通して発信する。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目